

2025 年 7 月 20 日 聖霊降臨後第 6 主日 ルカ 10:38～42

「必要なことはただ一つ」

今日大宮教会で、子どもたちとお泊まりのキャンプがあります。このテーマは「テント」に決まりました。今日の詩編交読で出て来る「幕屋」も第 1 朗読の「天幕」もヘブライ語ではオーヘルという同じ言葉です。

聖書の中で 270 節のうちに、299 回出て来る大切な言葉です。一番最初は創世記 9 章 21 節くあるとき、ノアはぶどう酒を飲んで酔い、天幕の中で裸になっていた。＞という場所です。テントは人々が暮らす場所でした。そのテントに、神の使いが訪れます。それが今日の第 1 日課です。

けれど出エジプト記 20 章でモーセが神から十戒を受けられた後から、テントに新しい意味が生まれます。モーセが再び山に登って、四十日四十夜山に籠もった後、出エジプト記 25 章で主なる神はモーセに、箱を作る、机を作る、燭台を作ることを命じられます。

そして 26 章から、神さまを迎えるためのテント作りが命じられます。しかしそのテントの中に入る事の出来るのは、祭司として選ばれた家の、アロンとその子どもたちだけでした。

私たちの生活の場であるテントに、入って来られた神さまに仕える人たちが、選ばれた者たちだけで本当に良いのでしょうか。この自然な考えを、

最初に口にしたのは、私たちのルターです。これが万人祭司と呼ばれて、私たちの教会ではごく当たり前に、受け止められています。

けれど今も礼拝司式は男性だけが行うとする教会があります。女性による聖餐式を受け入れない教会もあります。この男性優位は、完全に現代の人権思想からかけ離れています。

新約聖書でテントが出て来ることはわずかです。福音書では一度もありません。人々の暮らしが定住型に変わり、神は大きな都の大神殿に祭られる事になりました。

けれどイエスさまは神殿には行かれません。小さな町や村を巡って、招かれた家に止まり、悩める人の話を聞き、病を癒して行かれます。主はいつも私たちの暮らしの中におられます。

今日のイエスさまのみことばは、女性を台所に閉じ込めるために使ってはなりません。いまイエスさまは神さまと出会う場所に、すべての人を招かれています。子どもも、女の人、若い人、老人も、すべての人にとって、必要なことはただ一つ。それは神さまと出会って、平和な心を持つことです。

私たちに立派な神殿はいりません。イエスさまの招きに応じて主の足元に座りましょう。